

SEIAN 2002 Seian University of Art and Design



Sadamasa Motonaga Exhibition

元永定正展 報告
2002年 4月28日(日)～6月9日(日)
西宮市大谷記念美術館

主催:西宮市大谷記念美術館 毎日新聞社
後援:西宮市教育委員会

アートはアートの枠で考えてはいけない。
99年の今も活動し続ける作家、遊び心にあふれた作品群は訪れた人々に新たな感動を与えた。元先生は、1956(昭和31年)生まれのアーティスト。...



本学教授元永定正先生の展覧会が西宮市大谷記念美術館で開催された。この展覧会を企画したキュレーターは「生きている元永定正をリアルタイムで見せる展覧会」と先生を認得、先生もそれら現在の元永定正を見てもらおう、と書き下ろしのペインティングと新作のオブジェを出品。...



Atsuro Tayama Lecture

田山淳朗特別講演 報告
2002年 4月24日(水)
特別講義「田山淳朗、世界のファッションを語る。」
田山淳朗(本学客員教授)

君たちはいま、人生でいちばん重要なときにいるのだから、人より少しだけ一生懸命に。その差はいずれ大きくなる。
前学期が始まって間もない4月24日、田山淳朗先生による第1回の特別講演とワークショップが行われた。ファッションデザイナーとして世界的に活躍する先生は、昔はパリに仕事の本拠地を置き、そのパリに暮らす。...

ワークショップでは、具体的な仕事内容や、デザイナーとしての心がまえ、先生の振づくりの思いなどが話された。学生の質問に答えながら、自分を思うための何をすべきかを語り、聞き取った。先生は自分の知識をすべて教えてくれたよふとして、もちろん、その内容は教えもめる方々がベジションにかかっている。



AQUA-PLANET VIDEO FESTIVAL

成安造形大学開学10周年記念事業
「水の惑星映像祭」ビデオコンクール
本学は緑豊かな湖畔に位置し、豊かな自然と本校の教育・研究にも取り組んで来た。今朝21世紀の地球を享受する者として、「水の惑星映像祭」ビデオコンクールを企画しました。...

水の惑星映像祭、ビデオコンクール募集概要
公募テーマ:「水」
募集期間:2002年10月1日(火)～2003年2月28日(金)
採賞式:2003年5月10日(土)
賞品:大賞賞状(映画監督賞)
審査員:高橋彰(アニメーション映画監督)
井上道久(画家)、小林はくどう(映像作家)

水の惑星映像祭、その他の行事
成安造形大学開学10周年記念「水の惑星映像祭」特別講演会「石橋義正の世界」
2002年10月26日(土)19:00～21:00 会場:サンパズプラザ第5階第1講義室
特別講師 石橋義正氏(映像作家)を招いて、石橋氏の作品と時局と講演会を実施いたします。

SEIAN ART ENSEMBLE 2002
～選抜展と作品講評会～
2002年 10月11日(金)～10月13日(日)
11日(金) 13:00～18:00
12日(土) 10:00～18:00
13日(日) 10:00～17:00
会場:阪急グランビル26階
第1回卒業制作展出品を中心に展示を行います。
(どなたでも観覧していただけます)
受験生を対象にした
作品講評会(絵画デッサン、イメージ表現など)も
同時に行いますので作品を持参してご参加下さい。

成安造形大学 10th Anniversary Seian University of Art and Design
URL: http://www.seian.ac.jp/
成安造形大学 520-0248 滋賀県大津市御木町 4-3-1
Tel.077-574-2111(代表) Fax.077-574-2120
E-mail nyush@seian.ac.jp



ものづくり、情報、異分野との出会い  
ファッションを多角的に学んでマルチな感性を鍛える  
そして、次代への挑戦者となる。

現代では、あらゆる領域の境界線があいまいになっています。

ものをつくるのに、ひとつの分野でくれない、さまざまな要素がとけ合い影響しています。

ファッションデザインを学ぼうとすると、

ただ服づくりのテクニックを身につけるだけでは何かが足りません。

そう、もっとも大切な時代を感じる事ができないのです。

ファッションとはそもそも服づくりだけでは成り立っていません。

着る人の気分、体型、センス、着るシチュエーション、流行、

さまざまな要素が絡み合っています。

それらをすべて知り、感じ取ったうえでデザインされなければなりません。

成安造形大学ファッションデザインクラスは、

時代に即したファッションデザインを生み出すことのできる

デザイナー、プロデューサー、ディレクターを育成することを目的に創設されました。

ビジネス(産業)とクリエイションのふたつの領域を軸に、必要なスキルを身につけるほか、

クリエイターとして、社会人として生きるための知識や情報をプロから学び取ってください。

そして本学ならではの教育環境を生かし、

ショーやパフォーマンス、またメディアとの融合やショップ運営など...

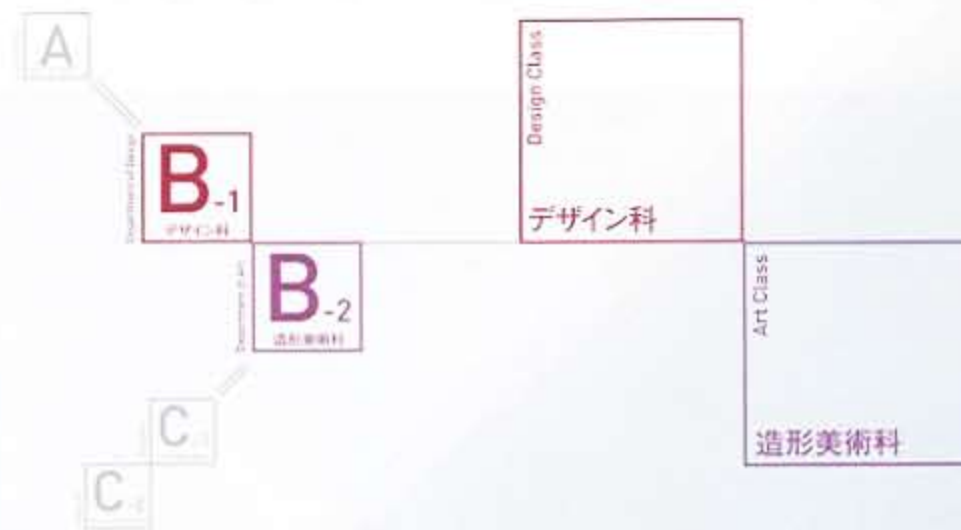
異分野とのコラボレーションを通じて、

ファッションデザインをとりまくさまざまな領域に踏み込んでいきます。

いま必要なマルチな感覚を磨いて、他では決してできない本物を目指して実力を身につけてください。







## Department of Design

さまざまな表現領域を横断して、ほんとうに自分がやりたい表現を創造する。

専門分野が専門分野として領域を確立していたのは、ひと昔前のことです。

いまでは、さまざまな表現領域の知識や技術、感性がクロスオーバーし、ジャンルを超えた表現が次々と生まれています。

成安造形大学の長は、それぞれの専門分野が特化しながらも領域を超えて自由に学べる学習環境にあること。

自分自身が求めていた表現を自分で創りだしていく充実感があります。

## Department of Art

アートはひとを解放する。だったら制作するアーティストも、もっと自由でなければ。

造形表現においても、ジャンルの融合や横断が盛んです。まずは興味をもったクラスに足を置いてください。

ほんとに自分がやりたいことを見つけたとき、クラスを移るすることができます。

そこで専門性を深め、学生たちも他のクラスの学生とコラボレート(共同制作)したり、プロデュースしたり、

身体的な活動を通して視野や社会との接点を広げることで、ほんとうに自分がやりたかったアートと出会えます。



# 映像メディアクラス



Point.01

幅広い映像メディアの専門について、柔軟に学べる。

メディアを使ったコミュニケーションは、いまや人が生活するうえで必要不可欠。今後ますますその中心軸が映像になると予想されている。都市ビルから映画・テレビ・インターネット・DVD・CG・ゲーム・携帯電話まで、映像はさまざまなカタチで社会に浸透し続けています。この幅広い映像メディアを総合的に学ぶにあたって、3つのコースを用意しました。

問題意識を映像化する  
【ビデオ・放送コース】

動く芸術である

【CG・アニメーションコース】

先進的なメディアクリエイターを養成する

【ゲーム・ハイパーメディアコース】

のいずれかを選択して専門的に学びたい。また、興味のある他コースの分野のことも学ぶことができ、幅広い専門知識を身につけることができます。

Point.02

映像作品をさまざまなメディアに展開できる、豊った環境。

テレビでのデジタル放送が始まり、ますますインタラクティブな表現が可能となってきた。映像メディアの世界。このクラスでは、地域の放送局やケーブルテレビをはじめ、インターネットや携帯電話、ラジオなどへのコンテンツ配信も積極的に実施しています。またビデオフェスティバルへ参加するなど、実際に現場を体験して実践的な力を養います。さらにはその映像作品をDVDに展開するなど、映像の可能性を探っていきます。このようなことができるのは、高い専門性を持ったカリキュラムが実社会で評価されているひとつの結果です。また、大林宣彦客員教授をはじめとする映像作家による映像制作のワークショップやNHK技研見学、特別講師による映像業界やゲーム業界のレクチャーなども実施。一連の機会を通じて、ディレクションやプロデュース力を伸ばしていきます。

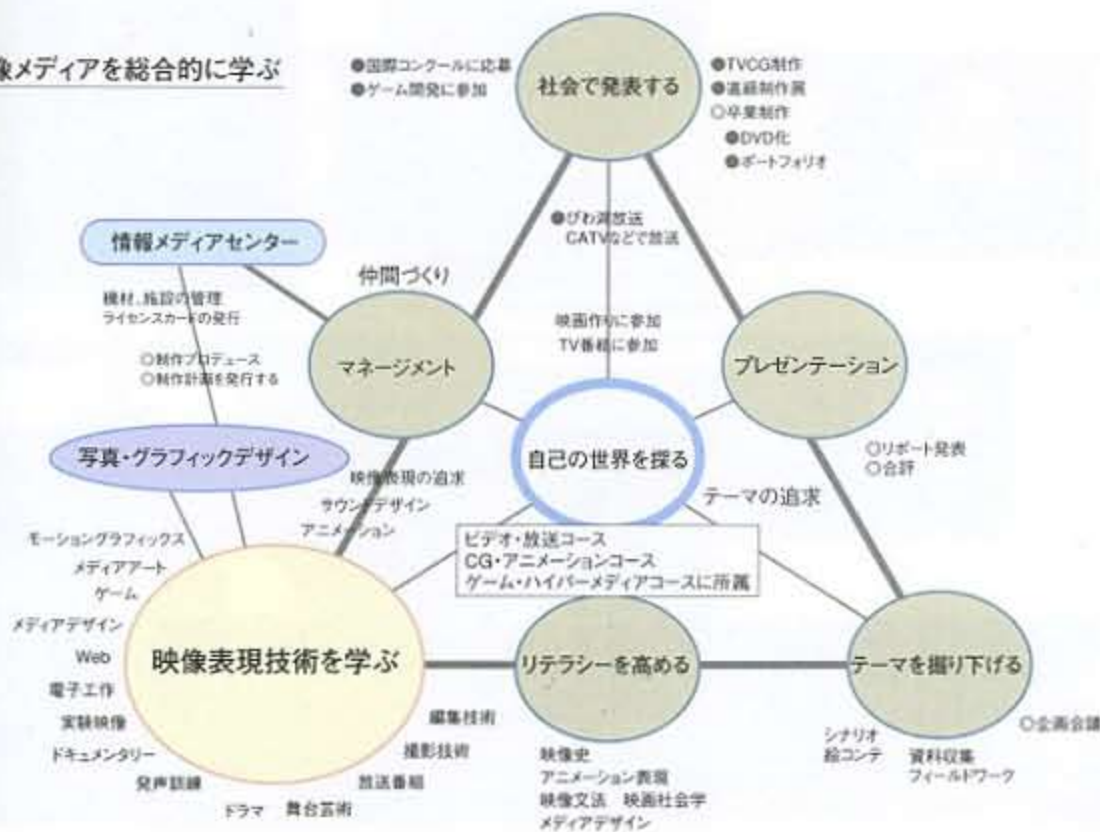
Point.03

実社会に関わりながら行う、レベルの高い作品づくり。

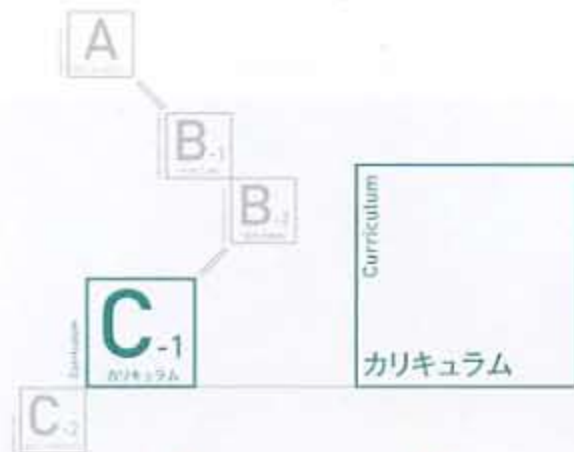
映像メディアクラスでは、積極的に企業との産学連携を実施しています。これまでに、びわ湖放送のCMづくりや滋賀ケーブルネットワークの特番制作、NHKの番組コンテンツの制作、地域の伝統を収めたビデオづくり、提携企業の最先端の技術を試験的に使った作品づくりなどを行ってきました。このような活動により、放送局や地域社会と深く関わりを持ってレベルの高い映像を学ぶことが可能となっています。また、社会に目を向け、柔軟な発想と問題意識を養い、映像による自己表現力を身につけていくことができます。こうしたことが、将来の道を広げ、社会へ出てからの実践力へと結びついているようです。

地域のメディアと連携をとりながら、映像表現の可能性を開拓する。

## 映像メディアを総合的に学ぶ







# Curriculum

クリエイターとして巣立つためのクオリティーがここにはある。

将来、クリエイターとして社会にでる。

それも、第一線で活躍するためにはいったいどうすればよいのでしょうか。

それにはまず、きちんとした環境でしっかりと基礎をつくっておくことです。

そのための多彩なカリキュラムとマン・ツー・マン感覚の教育システムを用意。

地域や企業と連携したインターンシップを活用しながらあなたの可能性を存分に引き出します。



人間の本质を考え、それを自分の芸術にいかす。  
多彩なジャンルを自由に学べる人間学講座。

表現とは、単に技法や手段を学ぶだけではありません。芸術の基本は、人間そのものにあります。人間は何を考え、何に感動し、何を求めているのか。それを学び探ることが、新しい世界を紡ぎ出す原動力なのです。例えば、芸術の歴史を学べば、偉大なアーティストたちの発想や創造の過程を疑似体験することになります。身体論では、身体を使ったアートの可能性やファッションショーなどの表現活動に必要な知識を学んだり…。また、英語を学ぶことにより発想と文化を学び、国際的な創造性を養うことにつながります。特に、これからの国際社会では、芸術を海外に学ぶ機会や自分の作品を海外に向けて発信していくことは特別なことではなくなってきました。こうした基本的な素養を、芸術を学ぶという視点で修得していくこと、それが人間学講座の基本目標なのです。しかも、本学ではこれらの講義を1年次から順に積み重ねていくという方式をとっていません。4年間という時間枠のなかで、自分が必要と感じた講義から履修することができます。1年次から専門的な科目を学びたいと思えば、そこから。逆に、4年次になって基礎を学びたいと思ったとき、基礎科目を履修することも可能です。

## 川喜田 八潮

■文芸評論

基本科目特講(表現学)では、表現とは何かという根本問題を徹底的に考えます。文学では、激動の20世紀をくり抜いた現代詩人たちの芸術にふれたいです。文化史では、戦後精神史の軌跡をアニメ・コミックス・映像をもとにたどる。臨場感あふれる授業を展開します。

## 山川 裕樹

■心理臨床学

心理療法における描画の研究。心理臨床学は、“イメージ”の学問です。心理療法は、その人が持つ固有のイメージを知ることから始まります。私の専門領域において取り上げられているイメージの可能性や多様性を授業でお伝えすることで、制作というイメージ探求作業を行う9学生諸君の視野の深さが広がっています。

自分の思いに  
本物の表現を与えたいと念ずるなら  
成安に来てください

## 山本 和人

■宗教学

近代社会と文化の関係思想史  
宗教学では、キリスト教や仏教、イスラームの全体的な特徴から、神話や伝説の仕組まで。哲学は、その時々々の時事的な話題から、人間と人間の間にはどんなものか、など。かなり幅広い内容を話す自信があります。(笑)

学校的な知識だけでなく色々なことに  
興味を持って欲しいですね

イメージの可能性・破壊性を  
考えています





# デザイン科 Department of Design

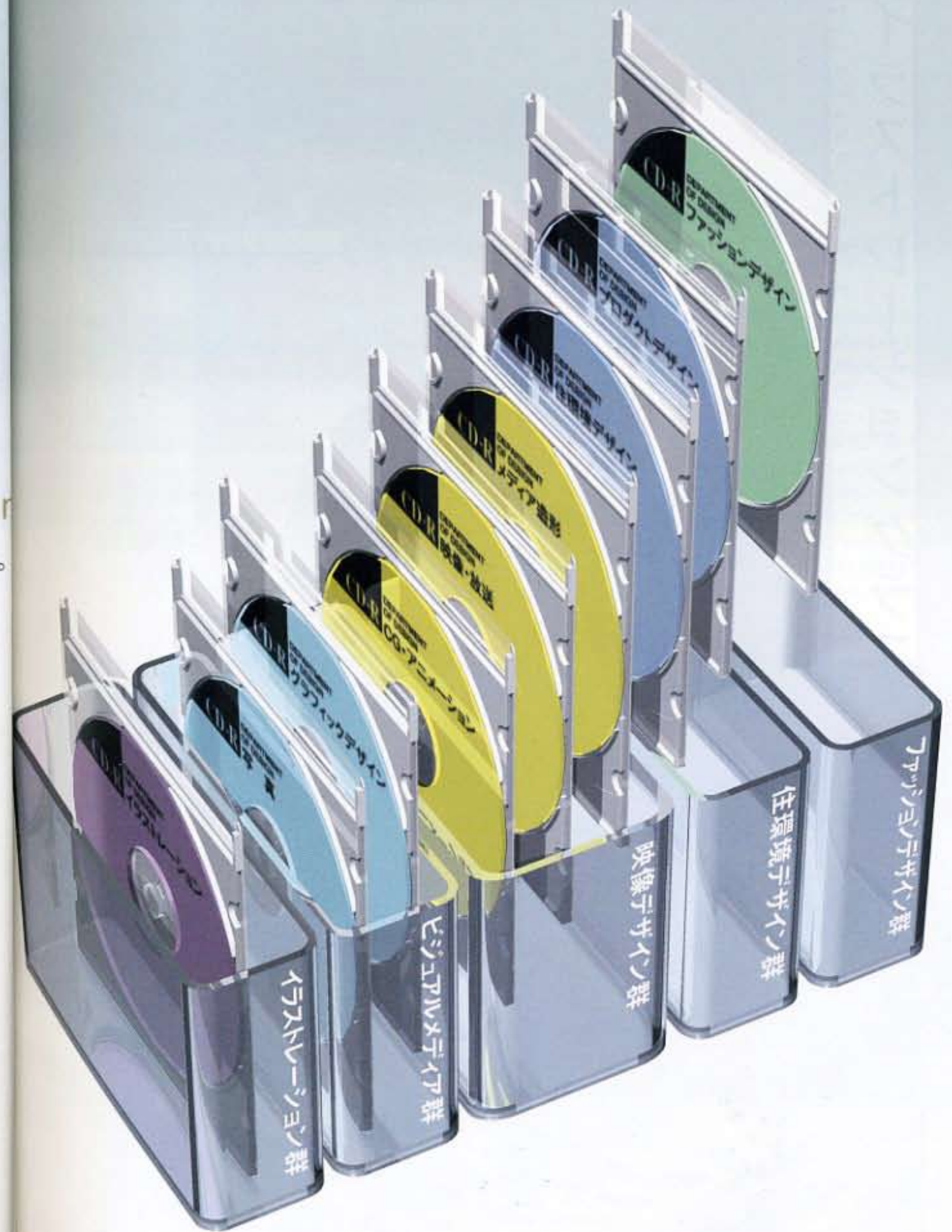
さまざまな表現領域を横断して、ほんとうに自分がやりたい表現を創造する。

専門分野が専門分野として領域を確立していたのは、ひと昔前のことです。

いまでは、さまざまな表現領域の知識や技術、感性がクロスオーバーし、ジャンルを超えた表現が次々と生まれています。

成安造形大学の特長は、それぞれの専門分野が特化しながらも領域を超えて自由に学べる環境にあること。

自分自身が求めていた表現を自分で創りだしていく充実感があります。







Hiyami Hayakawa

早川 宏美  
テキスタイルアートクラス 4年生  
長野 長野吉田高校卒

「染」「織」の技術をいかして  
さまざまなアートやインテリアにひろげていく。

素材から発想する力が  
テキスタイルを  
アートに変える。

4年生の早川宏美さんは、テキスタイルの技術を使って意外な素材と組み合わせ、独創性豊かな作品づくりを続けています。例えば、卒業制作ではトイレットペーパーに着目、それをコヨリにして織り上げ、みごとなタペストリーに仕上げました。テキスタイルというと、単に「染・織」の技術と思われがちですが、技術の修得はクリエイティブな世界への入口にしか過ぎません。このクラスでは素材の持つ特性に着目したり、独自の技法を開発することで、自分だけの発想をカタチにしていきます。このようにして得た知識や経験を活かしていけば、インテリアや空間造形、ファッション、舞台美術など、さまざまなジャンルへ道は広がっていきます。早川さんはこの春、テキスタイル関連会社に就職しますが、感性を磨くためにも作品づくりを続けていくつもりです。

伝統的な工芸と現代の美術を学び、  
あなた自身のテーマを  
融合させる。

テキスタイルアートを、少人数のクラスで基礎から学んでいける。テキスタイルアートは、いわば工芸のきめ細かさや美術の自由奔放さ、そして制作者自身のメッセージが絶妙に融合している表現方法です。工芸と美術の基礎を学んだうえで、大切になるのは「伝えたいその中味やオリジナリティ」です。それを見つけて初めて、テキスタイルはアートになるのです。卒業後の進路は多岐に渡り、テキスタイルアーティストをはじめ、テキスタイルデザイナー、アクセサリーデザイナー、雑貨関係の職業など多種多様。テキスタイルの素材や技法を使って、生活空間の中で生きるアートから自己表現としてのアートまで、ものづくりを通してあなた自身が知らなかった未知の可能性を広げてみませんか。



[oct hole]



[白い壁]



[texture of feeling]



el idéo

# EL GRAN VERDE





人を暖かく迎える豊かな包容力が、  
道行く人の足を止め、心をなごませる。

安定感と落ち着きに満ちた伝統の寄棟屋根のシルエットに、  
キュービックな門型バルコニーなど現代的な機能を融合させました。

そこには、洗練や上質という言葉だけでは語りきれない新しい感性が漂います。

そして、いつでも暖かく迎えてくれるエントランスの印象に、

安心感をおぼえ、得も言われぬ喜びを感じていただけるでしょう。

さらに、そのあふれる包容力は、道行く人にもやさしく語りかけ、

目も心もなごませる風景となるのです。

EL GRANVERDE ● 外観 2





居心地のいい空間があるからこそ、  
いつも愉しく、人生は豊かになっていくのです。

緊張をほぐし、心からくつろげて心身に潤いを取り戻す自分だけの部屋。

そんな居心地のいい環境を住まいに実現できたら。

エルグランベルデは、夫婦や家族のプライベートルームにこそ、

目立たず、しかし細部にまで計算され尽くした心地よさが必要だと考えました。

やすらぎ、語らい、学び、遊び、眠り、趣味を楽しむ。

そんなスペースが、日々の歡びを広げていくのです。



#### EL GRANVERDE BED ROOM

ゆったりとしたスペースを持つ主寝室。  
心から休めることを考慮した、落ち着いた照明や色調、シンプルな室内。  
心の絆を深める語らいのコーナーを設け、  
ホテルのスイートルームのような感覚で仕上げました。

#### EL GRANVERDE PRIVATE ROOM

趣味や研究などのための空間には、熱中するための静かな環境と、  
気分転換のための開放感が必要だと考えました。  
書斎に、ホビールームに、アトリエに。  
ときめきのある毎日のための提案です。



# 遮音・気密・断熱

優れた空間性能を標準に、さらに質を追求する。  
これがエルグランベルデのこだわりです。

心からくつろぎ、自分らしいスタイルでくらしを過ごすために、エルグランベルデは、数値として表れる空間性能はもちろん、

その質の向上をも目指しました。心身にさまざまな影響を与える音に対しては、外部との遮音だけではなく、

生活音の低減も含めて音環境にはトータルな配慮を施しています。

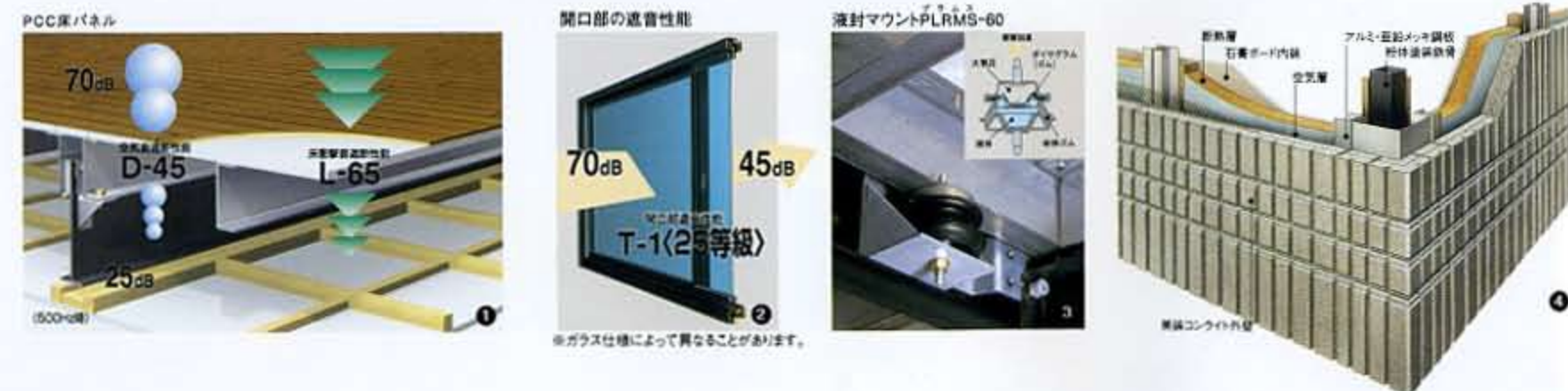
また、すこやかさや住み心地のよさを表現する気密性や断熱性も、より高いレベルを追求。

まさに、邸宅という響きにふさわしい住空間です。

静かで、そして周囲に気兼ねせずくらせる住空間を提供する遮音性に優れたPCC床パネル・遮音サッシ  
遮音性に優れるのもエルグランベルデの特長です。特に気になる開口部にはダブルタイト方式のサッシを採用し、防音サッシなみの遮音性能(T-1(25等級))  
でプライバシーを確保。室内においても2階床にパナホームオリジナルの新素材PCC(ポリマー・セメント・コンポジット)床材を使用。セメント  
と補強繊維を特殊な混合材で結合しており、2階からの生活音を約45dB低減。しかも防火性、耐久性にも優れています。

歩行音や重量衝撃音などの振動や、床衝撃音をやわらげ静かな住空間をつくる液封マウントPLRMS-60  
上階からの遮音対策として床パネルの支持部に液封マウントを住宅メーカーとして初めて採用しました。これは高級車や鉄道車両の緩衝材として実績  
のある技術で、ゴムの中に封じ込めた液体が衝撃や振動エネルギーを吸収。歩行音や重量衝撃音など不快な音をさらに緩和します。(床衝撃音遮断性能L-60)

厚さ215mmの複合構造の外壁が、安心、快適、省エネルギーを実現します  
くらしを守る外壁には、邸宅としての重厚感とともに、より強く、より耐火性・断熱性・遮音性に優れていることが必要だと考えました。エルグランベルデは、美装コンライト  
とともに、鋼製フレーム、空気層や断熱材、石膏ボードからなる厚さ215mmに及ぶ複合構造の外壁を採用し、安心感や快適性をさらに高めています。



すこやかで快適、そして省エネに優れた質の高い住空間を実現する高断熱・高气密設計  
性能の優れた断熱材で住まい全体を包み込みました。加えて、高气密性能の断熱サッシ枠を採用し、また気密設計を施すことで、夏涼しく、冬暖かな  
住空間を実現。しかも、居室と廊下の温度差や室内の上下温度差を低減するなど、心身への負担をやわらげます。もちろん次世代省エネルギー基準へ  
の対応も可能です。\*次世代省エネルギー基準-建設省、通産省により平成11年3月に公布。従来の「新省エネルギー基準」に比べ地域区分が市町村ごとにより細かく定められ、断熱性能も20~40%強化されました。

結露を防いでダニやカビの発生を抑え、紫外線もカットするLow-E複層ガラス(遮熱高断熱タイプ)  
快適な住空間に欠かせないのが窓の性能です。エルグランベルデは、複層ガラスの内側に特殊金属膜を施したLow-E複層ガラスを採用。サッシ枠に  
断熱材を取り入れた断熱サッシとの組み合わせにより、外気の侵入や室内の暖気の流出を防ぎ、冷暖房の効率を高めて省エネを実現します。しかもダ  
ニやカビの原因となる結露を抑え、衛生的でクリーンな住空間を確保。太陽の熱や紫外線をカットする「遮熱高断熱タイプ」に加えて、冬季のエネ  
ルギー効率を高める「高断熱タイプ」もご用意しています。





